

せ火鉢に對する注意を指導せねばならぬ。ストーブならばストーブの構造、煙突、水盤等の觀察から石炭の觀察も必要である。勿論ストーブに對する注意も十分指示せねばならぬ。庭を掃き集めた落葉を燃して火の觀察をなさしめる

こまもよい。所謂焚火は幼児には興味の多いものであり焚火でさつまいもなどをあぶつて食せしめるこまも一興である。しかし是等の機會に於て十分火を玩弄しないやうに訓練せねばならぬ。

## 自動車利用の園外保育につきて

城東幼稚園 脇屋直

當園にて自動車を利用し、園外保育を致しました最初

事に定めました。

は、昭和二年六月にて、この時は自動車にて豊島園へ参りましたが、其後暫らく中止致してをりました。現在當園は小學校の一部を使用致し、幼稚園は名のみにて、専用の庭園もなき慘さ、然し子供は小學校の運動場にて、毎日嬉々として遊んで居りますが、私共が考へますに如何にも可愛想で、園外へ連れ出したこの心むらく起つて参ります。園長は幸ひ園外保育に就きまして御理解下さいますので、昭和六年四月より經費の許す限り、又園外へ連れ出す

園外へ参ります時、保姆の注意する第一の要件は、子供に少しの疾病でもありました場合は、團體の仲間へ入れぬ様、堅く保護者に注意致して置きます事でございます。引率する幼児は學齡前(年長組)の子供、場所は近い所を選定致します。附添人なしで保姆と共に外出をする事は、保育上價值多き事と信じます。それ故遠方へ行く事は希望致しません。自動車は客用大型の自動車なれば、一臺幼児十二名は乗車出來ます。大抵幼児は二十五名位、附添として保

姆四名、小使一名。

幼児が附添人なしで保姆ミ外出致します事非常の樂しきで、其日の來るのを毎日指折り數へて待つて居ります。植物園は、春秋何れの季節でも子供等の爲に觀察材料豊富で、適當のよい場所御座います。然し年少組を全然休園する譯に参りません故、十一時半に歸宅致します。其より自動車に分乘して出掛けます。秋の木實拾ひは歸るのを忘れる程に子供達は喜びます。時折には前日籠を作らして當日持參致します。運よく材料を澤山拾ふ事が出来ました時は、年少組にお土産として分配致します事もあります。

歸園は大抵四時頃自動車屋ミ契約致し約束の時限迄に再び植物園前に迎ひに來て貰つて居ります。大事な幼児を預つて参ります大責任がありますので、少々乗車賃が高價でも信用のある一定の所へ依頼致して居ります。昨年は春秋二回の遠足の外、園外保育を七回實行致しました。

園外保育を致しました場所

一、日比谷公園

二、芝恩賜庭園

三、小石川植物園

四、九段靖國神社境内

五、明治神宮及外苑運動場

六、芝公園

七、上野動物園

以上七ヶ所

園外保育につき携帯すべき用品

一、救急用箱

二、各兒水筒持參

三、各兒輕き菓子少量

四、幼兒徽章

五、手拭

六、呼笛等

終りに臨みまして希望を述べさせて戴きます。都市幼稚園は、郊外に相當の敷地を所有し、交通機關を利用し、一週に二回位子供を郊外に連れ行き、廣い野原を自由に駆け廻り、トンボをまつたりバツタを追ひまわし、飛びまはる中に自然ミ新鮮なる空氣及日光に接觸せしめ、虛弱なる都市の幼兒の心身發達を増長せしめる事大に必要な事ではないか存じます。